

ひまわりだより

No.279

2021年 8月



中上ひまわり薬局 松本市中上10-5 TEL 0263-35-4441
FAX 0263-37-5561
塩尻ひまわり薬局 塩尻市長畝230-3 TEL 0263-51-5311
FAX 0263-51-5322

定休日 日曜・祝日

職員研修の一環として満蒙開拓平和記念館を訪れる平和体験講座が実施されました。

戦後 76 年を迎え戦争の時代を体験された方が減少する中、戦争の歴史を風化させない取り組みが年々重みを増しています。今回は、その思いを次世代に引き継ぐ施設の様子をお伝えします。



満蒙開拓とは、1932年満州建国以降敗戦までの間、大陸進出の軍事目的と不況対策とが合致した国策として推し進められた移民事業です。開拓とはいいつつ、格安で取り上げた土地で現地住民を従わせて農業を営むなど、中国人から見れば侵略者という一面も持っていました。

この様な事実は伝えられず、世界恐慌のあおりから不景気に喘ぐ多くの人々が満州に渡りました。10代の青少年で組織された青少年義勇軍も送り出されました。

戦況悪化に伴い青年男性は軍に動員され、満州での生活は、1945年8月9日のソ連軍侵攻により状況が一変します。

中国人との関係がこれを機に反転、現地住民からの襲撃もあり、お年寄りや女性、子供達だけでの逃避行が始まります。

集団自決に追い込まれたり、ソ連軍につかまった収容所での飢えや寒さ、病気で大勢の尊い命が亡くなりました。

さらに、逃避行や収容所生活の中で、生きるために中国人を頼ったり預けられるなどして妻や子となった中国残留孤児、残留婦人の問題など戦後も多くの爪痕を残しました。

<満州国について>

1932年に建国され日本の敗戦とともに消滅、13年間だけ存在した幻の国。

「清」最後の皇帝を元首としたが、日本が政治の実権を握っていた。

内モンゴルの一部が含まれており、かつて“満蒙”地域と呼ばれていた。



事前学習で、満蒙開拓には飯田・下伊那地方から全国最多の人数が送り出されたこと、満蒙開拓平和記念館はその南信州の地にあることを知りました。

また、建築過程について調べてみると、光の回廊を象徴とする館は、聖堂としての空間づくりを目指し、平和への希望の願いを込めて建てられていました。



<光の回廊>

実際に足を踏み入れてみると、木材がふんだんに使われた建物からは、とても温かみのある柔かい雰囲気伝わってきました。



記念館には、開拓団を送り出した背景や被害の様子、元開拓団員の証言など当時の状況を迫体験するような心に迫る資料が展示されています。

それと同時に、現地の方々にも多大な被害を与えたという加害の側面があったことにも触れ、同じ過ちを繰り返さないよう、きちんと事実を学び見つめ直すことの大切さも伝えていきます。

見学と合わせ、元開拓団員の方から直接お話を聞くこともできました。6歳で満州に渡り、87歳になった今も語り部として活動されている方です。

11歳の時にソ連軍侵攻を受け、つらい逃避行や収容所生活で大切な家族を失い、敗戦後も8年間中国に残留を余儀なくされるなど満蒙開拓に翻弄された人生の様子を伺いました。

そのようなつらい経験から、語り部を始めた当初は半分泣きながら講演されていたそうです。次第に失われていく感情があったり、話が型通りになってしまっている部分もあるとご自身では仰っていましたが、1時間半にもわたって熱心にお話下さいました。

生き残った限り戦争のない世界に向けた力の一つになりたいという強い信念や、「自分だけでなく同じようにみんなが生きられるようお互いを思い、話し合いで争いをなくしていくことが大事」という重みのある言葉がとても胸に響きました。

戦争を経験していない私たちが伝えることの難しさ、歴史を学んで想像を働かせることの大切さを教えて頂き、貴重な体験となりました。

その他、県内からの修学旅行で訪れた学生が作った新聞も掲示されていて印象に残りました。感染対策のために行き先を変更しての見学だったものの、自分たちの身近な地域に目を向け、学校では教わらない歴史を知ることができたという感想が寄せられていました。

このように、平和を発信していく施設として大きな意義をもつ記念館ですが、入館料と寄付によって運営されており、維持していく上で厳しい現状があるとのことでした。

一人でも多くの方が記念館を訪れることを願いつつ、今回の学びをきっかけに自分にできることは何か今後も考えていきたいと思いました。

❖❖ ひまわり薬局ではホームページも開設しています ❖❖

<http://www.himawari-ph.nagano.jp/>

こちらも是非、ご覧ください ☺